



“まちづくり”を考える情報誌



おっ!!

まちい~

vol.

152

Let's まちづくり from now on

2026 FEBRUARY

編集発行：群馬県県土整備部都市計画課



「富岡まちづくりアワード」のポスター※

特集

地域資源を活かした、多様な担い手が共創するまちづくり

- 地域の明るい未来を創造する「富岡まちづくりアワード2025」
- ミナカミ・ミライ・マルシェにみる地域再生の歩み

●トピックス **先進都市現地視察 ～那須塩原市における駅前図書館及び
まちなか交流センターを活かしたまちづくり～**

※富岡製糸場周辺だけが彩りを持ち華やかに見える一方、商店街は徐々にお店も無くなりモノクロ状態の現状を、富岡まちづくりアワードを通じて様々なアイデアが街を彩ることにより、従来の彩りある富岡の街をつくることを目指しているイメージです。



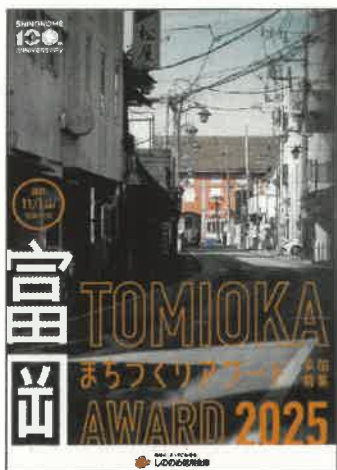


特集

地域の明るい未来を創造する 「富岡まちづくりアワード2025」

しのめ信用金庫 本店営業部

■はじめに



富岡まちづくりアワード
リーフレット

富岡市に本店所在地を置くしのめ信用金庫(理事長：横山慶一)は、2024年11月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録10周年を記念したビジネスアイデアコンテスト「富岡まちづくりアワード2024」を開催しました。

10年前と現在では製糸場周辺地域を取り巻く環境は大きく変化しており、富岡製糸場の活用に加え、観光や商店街の活性化、空き家・空き店舗の問題など、地域の課題を解決するためには市民・行政・金融などが協力して取り組む必要があります。

富岡市と共に歩んできた金融機関として、しのめ信用金庫が地域のハブとなりまちづくりネットワークを活かせる環境を整備し、情報を発信する機会を作りたいという思いから、2025年も「富岡まちづくりアワード」を開催いたしました。

■「富岡まちづくりアワード2025」の概要

【日時：場所】

2025年11月1日(土)

世界遺産 富岡製糸場 国宝 西置繭所多目的ホール

【参加者】

高校生部門10チーム ビジネス部門5チーム

(最終エントリーチーム23チーム)

【開催の目的】

富岡製糸場を核とした富岡市および周辺市町村の魅力
を再発見し、地域の活性化に繋がるビジネスアイデアを通じて社会人および学生の創業マインドを醸成し、地域
における新たな産業や雇用の創出を目的としています。

【募集テーマ】

富岡製糸場と絹産業遺産群を利活用したアイデア、観光、まちづくり、商店街の活性化、空き家・空き店舗の活用、
環境・防災、交通や農林業の課題、伝統文化の継承、AIやDX、ドローンなど最先端技術を活かしたアイデアなど、
幅広い分野がテーマ。



富岡製糸場 国宝 西置繭所





【審査項目】

- 「プラン」 独創性、新規性、実現可能性、市場性、
地域貢献性、成長性、事業収益性 7項目
「発表」 スライド、熱意、発表内容 3項目

【審査員】

富岡市長、群馬県議会議員、富岡商工会議所会頭、
しののめ信用金庫理事長など



決勝プレゼン大会発表シーン

■ 受賞内容

- 「高校生部門」 最優秀賞 富岡市長賞 田辺さん（東京農業大学第二高等学校）
発表テーマ「富岡1DAYパスポートでみんなにWINなまちづくり」
「ビジネス部門」 最優秀賞 しののめ信用金庫理事長賞 茂木さん（美容師）
発表テーマ「日本一過疎化の村から 日本一あたたかい美容室を」



決勝プレゼン大会の様子(表彰式・エントリチーム集合写真・最優秀賞2チーム)

高校生部門の田辺さんは、外国人観光客が求める日本らしさと富岡製糸場の西洋文化のイメージがミスマッチであることを課題として、富岡ならではの「貫前神社・妙義神社」に着目。富岡市内の観光スポットを「1DAYパスポート」を使ってフリーパスで周遊できるプランを発表しました。

ビジネス部門の茂木さんは、人口減少や高齢化、空き家問題を課題として、地域資源である「古民家」をリノベーションした美容室の経営と地域交流イベントの開催を組み込んだ、地域の持続的な経営モデルを発表しました。

■ 今後のビジネスプラン実現に向けて

「富岡まちづくりアワード2025」の発表を終え、しののめ信用金庫としては、参加された15チームのプランが一つでも多く実現することを願っております。今回、後援先として日本政策金融公庫や群馬県信用保証協会など金融を支援する機関がサポートしており、富岡市などの行政や商工団体とも協力してプランの実現に向けて必要な支援をしたいと考えております。

ビジネス部門で最優秀賞を受賞された茂木さんは、今回の発表を契機として事業の開始に向けて、検討を開始されており、しののめ信用金庫として全面的に支援をしたいと考えております。

■ おわりに

しののめ信用金庫は2025年6月に創立100周年を迎えました。地域の皆さまへの感謝の気持ちと「地域にまっすぐな愛を」のスローガンのもと、信用金庫らしい温かみのある活動を積み重ね、お客様にとって身近な金融機関として、地域の未来に貢献できるよう努めてまいります。





特集

ミナカミ・ミライ・マルシェにみる 地域再生の歩み

みなかみ町役場 企画課



ミナカミプラザ完成予想パース

2021年4月、群馬銀行がみなかみ町の豊かな自然資源や首都圏からの好立地に着目し、地方創生に取り組むオープンハウスグループを紹介したことが包括連携協定の端緒となった。初期段階ではスキー場事業の承継や水上温泉街の大型廃業ホテル再生が議題となり、単一施設の再生では十分な効果が得られないとの認識から、東京大学大学院工学系研究科に温泉街全体の空間デザインを依頼。こうした流れを経て、2021年9月に産官学による包括連携協定が締結され、持続的な地域活性化が本格的に始動した。

プロジェクトは当初、廃業ホテルを解体し新施設を建設する計画だったが、建物の一部が河川区域内にあるため再建不可と判明。利根川対岸の景観も魅力的であることから既存建物を活かす「再生建築」へ転換した。同時に、地域の空き家や空き地活用を議論する中で「廃墟再生マルシェ」が企画され、2022年の初回には約1300人が来場。翌年は約3000人、さらに第3回では約4500人と認知度が拡大した。大学依存への懸念から地域主体の運営が模索され、公募型プロポーザルで旧一葉亭の活用方針が決定。プロジェクトは「廃墟再生」から「再生活用」へと進展した。

2025年には「ミナカミ・ミライ・マルシェ～水上温泉 廃墟再生ストーリーズ2025～」へ発展。前年の4会場から10会場へ拡大し、JR水上駅から道の駅水紀行館まで南北1.5キロに展開。出店数も過去最大の52店舗となり、地域全体を巻き込むイベントへと成長した。当日は通常非公開の旧一葉亭内部ツアーを実施し、減築工事後

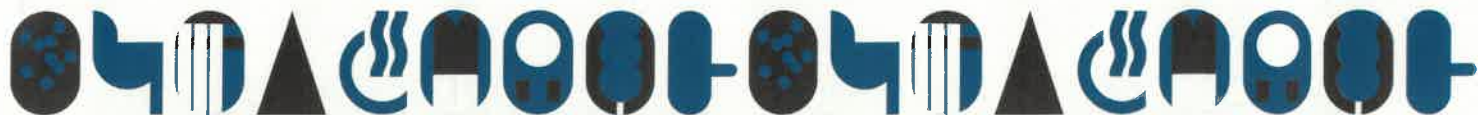


プロジェクトの中心となっている旧一葉亭



「廃墟再生マルシェ」街中の様子





旧一葉亭内部ツアーの様子



電気バス「eCOM10」

の姿を公開。「減築と再生」という新たなアプローチを紹介し、自然との調和を体感してもらった。

また、群馬大学との共同研究で電気バス「eCOM10」を走らせ、二日間で約550名が利用。観光客の回遊性を高め、滞在時間の延長やクラフト体験、地元食材を活かした飲食を楽しむ姿が見られた。

12月9日の報告会では、来場者アンケートを踏まえ「マルシェを継続するには」「11個目の会場を作るなら」「日常的に続ける会場はどこか」といったテーマで議論。出店者や住民からは自然を楽しめる新コンテンツや地域交通整備への期待が寄せられ、時間帯を区切った一方通行や歩行者天国の提案も出された。これらは将来的に「ウォーカブル区域」として温泉街の魅力を高め、「そぞろ歩きを楽しむ温泉街」への方向性を示すものとなった。



「ミナカミ・ミライ・マルシェ〜水上温泉 廃墟再生ストーリーズ2025〜」の様子

——地域資源を活かし、廃墟再生から未来志向のまちづくりへと進むみなかみ町の挑戦は、持続可能な観光と暮らしを結びつける新たなモデルとして注目されている。



湯原橋から望む谷川岳は絶景

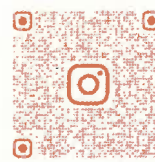
【みなかみ町 廃墟再生プロジェクト】

詳細はこちらから↓

ホームページ



Instagram



@HAISAI_MINAKAMI





先進都市現地視察 ～那須塩原市における駅前図書館 及びまちなか交流センターを活かしたまちづくり～

群馬県 県土整備部 都市計画課

■ はじめに

群馬県都市計画協会では毎年、まちづくりに関する先進的な事業を行う関東近隣都県の都市を訪れ、事業に携わる自治体担当者から直接お話を伺い、群馬県内のまちづくりのヒントを得るため、先進都市現地視察を実施しています。

今年度は令和7年11月14日(金)、栃木県那須塩原市を訪問し、都市再生整備計画「黒磯駅周辺地区」に関連する施設である「那須塩原市図書館 みるる」および「まちなか交流センター くるる」を視察しました。

群馬県内でも都市再生整備計画事業を活用している自治体が多数あり、そうした担当者を含め11市町から27名と、多くの方にご参加いただきました。

■ 那須塩原市・黒磯駅周辺地区

栃木県北部に位置する那須塩原市は、平成17年1月1日に黒磯市、西那須野町、塩原町の1市2町が合併して誕生しました。黒磯駅周辺は、鉄道やバスなどの公共交通が結節する交通の要所であり、行政機能や商業機能が集まる地域です。しかしながら、旧西那須野町の東北新幹線「那須塩原駅」周辺への大型商業施設の立地に加え、人口減少や高齢化の進行といった社会的要因の影響により、黒磯駅周辺の古くからの商店街では空き店舗が増加し、いわゆるシャッター通り化が進行し、かつてのにぎわいが失われつつあります。

こうした状況に対し、自治体や地元住民も危機感を抱き、再生への機運が高まったことから、官民一体となったまちづくりがスタートしました。

■ 那須塩原市図書館 みるる

那須塩原市図書館「みるる」は、令和2年9月に開館し、約18万冊の蔵書を誇ります。建物の特徴として、周囲の景観に溶け込む「大きな窓」による開放的な空間と、駅前から街中へとつながる通り抜け可能な動線「みるるアベニュー」が挙げられます。

従来の図書館には、飲食禁止などの厳格なルールのもと、静かに過ごし、本を読んだり調べ物をしたりする場所という既成概念があります。しかし、「みるる」は「誰にとっても居心地のよい場所」を意識し、図書館や本に興味がない人や、特に目的のない人でも気軽に立ち寄れる空間づくりが特徴です。館内の随所にアート作品が展示されている点も魅力のひとつです。

館内には、利用者のニーズに応じて選べる多様な居場所が用意されています。気軽に使える可動式の椅子と机を備えたスペース、窓際で一人になれるソファ、静かな環境で読書や学習ができるサイレントラーニングスペースなどがあります。さらに、館内にはカフェがあり、指定されたスペースでは飲食も可能です。

視察当日も、時間帯によって高齢者や親子連れが多く利用する様子や、夕方には学校帰りの学生が集まる様子が見られ、さまざまな過ごし方ができる場であることを実感しました。



「みるる」外観



みるるアベニュー



まるで美術館のような館内



「くるる」外観

■ まちなか交流センター くるる

まちなか交流センター「くるる」は、黒磯駅前のにぎわい創出を目的として整備された施設で、令和2年9月に開館しました。建物は大きな屋根で覆われた開放的な空間が特徴で、屋内外を一体的に利用できる広場のような設計となっています。

「くるる」は、市民が気軽に集まり、交流できる場を目指しており、キッチンスタジオやフードコート、ステージ、音楽室、工作室、和室、キッズスペースなど、多様な機能を備えています。特に、チャレンジショップ制度を導入し、地元の飲食事業者が一定期間出店できる仕組みを設けることで、地域の新しいビジネスの芽を育てています。

「くるる」は、単なる交流施設にとどまらず、食や文化を通じて人と人をつなぐ拠点として、地域の活性化に大きく寄与していることを実感しました。





マーチィ's ROOM

マーチィ VOICE

まちづくりプレイヤー紹介

本屋水紋 店主 小澤 亮太

2025年7月に前橋市の中央通り商店街に「本屋 水紋」を開店した小澤亮太と申します。民間主導のまちづくりが進む前橋のまちなか。その象徴である白井屋ホテル、馬場川通りからは徒歩3分ほどの場所にあります。

高校まで前橋で過ごし、大学進学とともに上京。出版取次会社で7年間勤務し、2024年の2月にUターン。2024年6月から1年間前橋市中心市街地の地域おこし協力隊として前橋まちなか新聞の取材・執筆、前橋ブックフェスの事務局員、前橋に視察に訪れた方へのまちあるきなどの活動を行っていました。その間に現在の物件を紹介していただき、開業に至りました。昨年11月には一般社団法人太陽の会が主催するmebuku PITCH(前橋市の市街地で開業する人への支援を目的にしたビジネスピッチ)に登壇し、最優秀賞を頂戴しました。



小澤 亮太さん



「本屋水紋」内観



Uターン、地域おこし協力隊を経ての開業ということで、大学生、高校生向けの講義、上毛新聞のオピニオン委員も担当させていただいています。

当店の開店以来の売上上位には『めぶっく』『都市と路上の再編集』『日常3』とまちづくりに関わる本が名を連ねています。民間主導のまちづくりが進む前橋のまちなかに立地する本屋らしい順位です。『都市と路上の再編集』は当店が日本で一番売っ

ているらしく、発行人である株式会社Huuuuuの徳谷柿次郎さんをお迎えした出版イベントも行いました。雑誌の定期購読や1冊からの注文といった「まちの本屋さん」としての機能も果たしています。

「まちづくり」という文脈において、本屋は街に必要なとされるでしょうか。ソトコトの編集長である指出一正さんは関係人口が増え、移住者が増えていくまちには「やわらかいインフラ7」があるとしています。前橋に足りなかったものが「おしゃれな本屋」。当店がおしゃれかどうかはお客様の見方次第ですが、いわゆる独立系書店が存在しなかったのは事実であり、そのラストピースとなることができたと自負しています。「本屋が街にあったほうがよい」という明確な根拠はありませんが、多くの方が「あったら嬉しいな」と思う小売店の一つが本屋だと思います。私自身も「本は読んだ方が豊かになる」「本屋は街にないよりあったほうがよい」という思いで、日々営みを続けています。

出版科学研究所の発表によると本屋が一店舗もない自治体は全国で28.6%、群馬県内でも11自治体、31.4%となっています。今後の目標の一つにこういった本へのアクセスポイントを失っている場所で何かしたいというのがあります。本を媒介としたコミュニケーションが広がる場所が県内、全国に広がってほしいと願っています。本がある、本屋があるまちは「いい街」であるはずだから。



「本屋水紋」外観



まちづくりイベント情報

第13回 老神温泉びっくりひな飾り

幅18m×高さ3.8mの特設ひな壇や、幅6.7m×高さ3mの15段のひな壇をはじめ、およそ7,000体を超えるひな人形が並び圧巻の光景をご覧ください。

■2月14日(土)～3月22日(日)
※休館日 2月17・24日(火)、
3月10・17日(火)

9:30～16:00
※最終日は12:00まで

■利根観光会館
【お問い合わせ先】
老神温泉びっくりひな飾り
運営委員会(老神温泉観光協会)
TEL 0278-56-3013



ウインターフェスティバル 2026

村の有志による「昭和村に花火を上げる会」が「子どもたちに夢と思い出を」をスローガンに冬の夜空に花火を打ち上げる。

■2月14日(土)16:00
(花火打上 18:30)
■昭和村総合運動公園(昭和村糸井5895)

【お問い合わせ先】
昭和村役場企画課
TEL 0278-25-3442



令和8年度 富岡製糸場観桜会&工女まつり

春の世界遺産・富岡製糸場で桜を楽しみませんか。工女まつりも同時開催でおこないます。様々なイベントや出展を予定しておりますので、ぜひご来場ください。
※富岡市民・未就学児・障害者手帳をお持ちの方と介護者(1名)以外は、富岡製糸場の見学料がかかります。

■4月4日(土)9:30～16:00
4月5日(日)9:30～15:00 予定
※工女まつり 4月4日(土)
10:00～15:00 予定

■富岡製糸場西置蔵所
多目的ホール及び前庭
【お問い合わせ先】
富岡製糸場観桜会&工女まつり実行委員会
TEL 090-8000-6581



本と珈琲とちょこっとオヤツな1日 ～大人のための新しい公園の過ごし方～

自然豊かな公園で読書やチェアリングを楽しみながらこだわり抜いた珈琲とオヤツやパンを手に気ままにくつろげる空間を…。『大人のための新しい公園の過ごし方』をテーマに開催される。県内外から約30の人気店が集結、当日は青空のもと心地よいフリーライブや、チョークアーティストとおえかきをする「園路におえかきをしよう」も開催。

■4月5日(日)10:00～15:00
■群馬県立観音山ファミリーパーク

【お問い合わせ先】
群馬県立
観音山ファミリーパーク
TEL 027-328-8389



「ブックシェアリング企画」本のとりかえっこ

本でつながる・本がつながる・本の好きな人々を繋ぐ「リユース」なイベント。公園サービスセンターではイベント前日まで本の寄贈を受付中。もう読まないけど…という方から、新品でなくてもいい、読んでみたい!という方へ無料で本を譲る。寄贈は1冊からでも大歓迎。本の傍らにこだわり抜いた珈琲&オヤツ&パンを好きなものを好きなだけたのしむ1日に。「本と珈琲とちょこっとオヤツな1日」同日開催。

■4月5日(日)10:00～15:00
■群馬県立観音山ファミリーパーク

【お問い合わせ先】
群馬県立
観音山ファミリーパーク
TEL 027-328-8389



おしらせ

まちなかポケットパーク社会実験

まちなかの小さなスペースに地域住民や観光客が交流・休憩のできる場をつくり、社会実験を実施しています。

- 令和7年11月～令和8年3月 終日利用可能
- ①大間々駅前(みどり市大間々町大間々1375番地)
②いきいきセンター正面入り口側
(みどり市大間々町大間々1378番地)
- ③いきいきセンター駐車場側
(みどり市大間々町大間々1378番地)

【お問い合わせ先】
みどり市 都市建設部 都市計画課
TEL 0277-76-1903



総合建設コンサルタント

株式会社 アイ・ディー・エー

I.D.A

コンストラクションマネジメント/インフラメンテナンス/都市計画・まちづくり/
防災・減災事業/指定管理事業など、官民連携に関する広範囲な事業展開

企業理念(STEP)



官民連携事業でお困りの際は、
当社までお気軽にご相談ください。



県立公園アイ・ディー・エー群馬の森
指定管理者(令和6年度～)

群馬県高崎市倉賀野町4221番地13
TEL 027-384-6600
FAX 027-384-6601
URL: <https://www.ida-web.jp>

令和7年度 みどり市景観講演会

みどり市・群馬県都市計画協会の共催で、国土館大学准教授の西村 亮彦氏による講演を行います。※参加には、事前の申込みが必要です。

■令和8年3月11日(水)18:30～20:30(受付開始18:00)

■ながめ余興場
みどり市大間々町大間々
1635番地

【お問い合わせ先】
みどり市 都市建設部
都市計画課
TEL 0277-76-1903



まち'sクリの独り言

二月は寒さの中にも春の兆しを感じる季節クリ。皆さまお健やかに過ごしてくださいクリ。今年度もご愛読いただき、大感謝クリ。来年度も心温まるひとときをお届けできるよう努めますクリ。春の足音が聞こえてきて、ワクワクが止まらないクリ!みな風邪ひかないで、ぬくぬく過ごすクリ!引き続き、「おっ!まっちい～」をよろしくお祈りしますクリ～。



有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】群馬県県土整備部都市計画課企画推進係

TEL 027-226-3661 URL <https://www.pref.gunma.jp/page/11493.html>

